

山梨県水産技術センター・研究課題事前評価表

山梨県水産技術センター課題評価委員会(2011.9.27)

試験・研究課題名:寒沢モニタリング調査

大課題名:漁場の実態把握

小課題名:個体群の維持機構の解明

細目課題:寒沢モニタリング調査

担当者名:研究員 坪井 潤一

| 評価項目                      | 評価点     | 指摘事項                         |
|---------------------------|---------|------------------------------|
| 1 課題設定の必要性<br>(背景、社会的ニーズ) | 5 / 5   | 在来魚の保全において必要性は高く、引き続き行って欲しい。 |
| 2 課題の新規性、独創性              | 4 / 5   | 従来からの継続調査である。                |
| 3 目的・内容の整合性<br>妥当性        | 5 / 5   | 目的、内容ともに妥当である。               |
| 4 研究手法の的確性、<br>技術的可能性     | 4 / 5   | 集団の有効サイズについても検討して頂きたい。       |
| 5 成果の期待度                  | 5 / 5   | 保全、管理への成果の活用に期待する。           |
| 総合評価                      | 4.6 / 5 | 在来魚の絶滅を阻止するため、さらなる努力をお願いする。  |

「注」 評価点の目安

|    |    |      |    |      |    |
|----|----|------|----|------|----|
| 評価 | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
| 点数 | 5  | 4    | 3  | 2    | 1  |

試験研究機関の処置

渓流域の在来のイワナやヤマメは、危機的な状況にある。  
在来魚の絶滅阻止のため、更なる努力をしていきたい。